

## 地域おこし協力隊通信 (No. 11) 種子島のヒーロー

種子島のヒーローについて少し考えてみました。

種子島のヒーローと言えば1999年から活躍している「離島閃隊タネガシマン」を島民なら思い浮かべるでしょう。

種子島を舞台とした映画／アニメでのヒーロー、ヒロインでは「ライフ・オン・ザ・ロングボード」の俳優・大杉漣、「秒速5センチメートル」のキャラクター・澄田花苗、「ロボティクスノーツ」のキャラクター・八汐海翔らがいます。

私の好きなヒーロー像はアンチヒーローです。

いつもだらしない、どちらかと言えば無気力な生活をしていて、自分のこだわっている信条に外れる事象に触れた場合だけ、その超人的な力を発します。凶らずも、結果的には人のためになることをしてしまうんです。

具体的に語るなら、私の種子島のヒーローはN田さんと明言します。

彼は70歳オーバーと見受けられる種子島育ちの男性です。年齢があいまいなのは聞いた事がないからです。前歯がないからその年齢に感じてしまい、本当

は60代かもしれません。彼は種子島のネイティブスピーカーカーです。ただ、そこにフガフガという空気が抜ける音が混じるためか、私はまだ彼の種子島弁がほとんど理解できません。

さて、それでは彼がどうして私のヒーローなのか？

いつもノースリーブのシャツを着て、腰にはコルセットを巻き、夜は焼酎を飲み、日中はフガフガしています。

ところがいざ、海に出て網を上げる、竹林に入ってテナガエビを採る、川に入ってテナガエビをすくう、安納芋の畑作りで耕運機を振り回す、台風の前対策を指示する、西之表の港まで

奥さんを迎えに軽トラをフルスロットルで転がす、巨大魚をも

の一分で三枚におろす、巨大グモにはたじろがない、などフガフガとへのようにやり切ってしまう。同じように私も体験させてもらったのですが早々にギブでした。

大阪育ちの私からすれば、このN田さんは、上から見ても下からみても逆光で見ても、ヒーローとしか言いようがないヒーローだと、ここでキツパリと二度目の宣言をします。

(山村)

## 憧れのオリンピック選手と交流

### 中村美里選手・田知本遥選手来訪

7月17日、種子島中央武道館に、オリンピック柔道メダリストの中村美里選手と田知本遥選手が来訪し、柔道場の児童生徒らと交流し、記念撮影をしました。

これは、島内に中村選手の恩師が暮らしており、その方を訪ねて来島した事により実現しました。

憧れの選手の来訪に、皆緊張した様子でしたが、一緒に写真に収まることのできた嬉しさからか、撮影後は笑みがこぼれていました。



前列中央左が中村選手、右が田知本選手

## ダクマ捕りにチャレンジ

### チャレンジ・キッズ



ダクマ (テナガエビ) 捕りの様子

自然を体感するチャレンジ・キッズの活動が7月15日にあり、15人の子どもたちが、増田の犬城川でダクマ捕り体験を行いました。すでに準備万端整った子どもたちは、目的地に着くと早速、たも網を片手に川に向かいました。

ダクマは警戒心が強いため、捕獲には根気が必要ですが、子どもたちは粘り強く、楽しみながら取り組み、多くのダクマを捕まえていました。